

大阪大学経営協議会（令和7年度 第1回）議事要旨

日 時 令和7年4月18日（金）10時00分～12時00分

場 所 大阪大学中之島センター 8階大会議室

出席者 熊ノ郷総長（議長）

大塚、金倉、来島、國井、多田、塚本、豊田、仲谷、中野、蓮輪、藤井、村木、藤尾、田中、尾上、尾崎、宮本、林、竹村、武田、井上恵嗣、栗原、大政、石井各委員

欠席者 井上ゆかり、黒田 各委員

議事に先立ち、熊ノ郷議長から、総長就任の挨拶及び新任の学内委員の紹介があった。続いて、前回（令和7年3月18日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定した旨の報告があった。

議 事

1 令和7年4月からの運営組織構成員等について

- (1) 役員の任命について
 - (2) 副学長及び総長参与の指名について
- 熊ノ郷議長から、配付資料に基づき報告があった。

2 国際卓越研究大学の公募に係る申請について

熊ノ郷議長及び尾上委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- グローバル化という観点から、学部生については、留学を卒業要件としてもよいのではないか。
- なぜ大学ファンドを必要とするのか、大阪大学のオンリーワンは何か、これらを明確にする必要があるのではないか。また、この改革により、優秀な人材が大学に集まるという点も大きくアピールしてはどうか。
- 審査の過程で選考委員の記憶に残るよう、大阪大学の強みをしっかりとアピールすることが重要ではないか。また、各フェーズの設定について、第1フェーズについては、進捗が順調かどうか早めに検証できるような期間に設定することもあり得るのではないか。
- 「これから始める」ということではなく、「既にやっていることをさらに発展させていくために、資金が必要となる」という説明の仕方が重要であり、これまでの実績についてもそういった流れの中で説明してはどうか。また、博士課程人材を増やすことについて、どのような体制でどのように育てるか説明する必要があるのではないか。
- 中小企業との連携という点において、企業にいる若手の人材を大阪大学がどのように育成していくかということに踏み込んでもよいのではないか。また、学部の留学プログラムについて、学部のカリキュラムが過密であるということも踏まえると、全学的なプロ

グラム構築の体制が必要ではないか。

- ガバナンス体制について、現在の組織からどのように変わるのか、目標を達成するために十分であるか、わかりやすく記載してはどうか。
- 5～8月頃にかけて、カメラが入るような規模の報道発表があると、審査の過程においても大阪大学の存在を印象付けられるのではないか。
- 25年後の大阪大学のあるべき姿からバックキャストして、例えば、総長任期である6年後の段階での目標値を設定することも必要ではないか。
- ガバナンス体制の中で非常に重要な位置づけとなるプロボストについては、その機能や性格等をもう少し詳しく説明してはどうか。
- 目指すべき姿に向けてのトランジションやレバレッジポイント等が明確になれば、計画の実現性が伝わりやすくなるのではないか。また、不確実性のマネジメントという観点から、データに基づく意思決定や様々な変化への対応ができるガバナンス体制となっている、という説明も有用ではないか。
- 大阪大学が考える「優秀な人材」や「活躍してほしい人材」が記載されると、非常にインパクトがあるのではないか。
- 過去の研究からどのように変えようとしているのか、「かたち」ではなく、その中身を強調していく必要があるのではないか。また、これまで培ってきたことを活かして、大阪の地で戦略的な財源を大きく獲得していくという点については、一般論ではなく具体的に記載してはどうか。
- 資料には少し前の成果が記載されているが、大阪大学が今も世界に冠たる研究を行っていることを示すために、最新のブレークスルーを見せる必要があるのではないか。

(以 上)